

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	ミューオン起因ソフトエラー評価基盤技術： 実測とシミュレーションに基づく将来予測
研究代表者	橋本 昌宜 (大阪大学・大学院情報科学研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>ミューオンによるソフトエラーは、集積システムの信頼性を低下させる主たる要因となることが指摘されている。本研究では、この問題の解明のために、ミューオン照射実験により基礎物理を正しく捉え、実データで検証されたミューオンソフトエラーシミュレーション技術を確立することを目標としている。</p> <p>ミューオン基礎物理とデバイス物理を統合的にシミュレーションする体系を世界に先駆けて構築するところに学術的意義がある。また、集積システムは現代社会の基盤であり、本研究はその信頼性を確保するための基礎となる技術を提供するものであることから社会に対する成果の還元が大いに期待される。</p>